

高松市長 増田 昌三 殿
 高松市教育委員会 教育長 横田 淳一 殿
 高松市議会 議長 三笠 輝彦 殿

大規模給食センターではなく、 自校方式での学校給食の継続と充実を求める請願

【 請 願 趣 旨 】

高松市教育委員会は、平成 21 年 4 月開校予定の新設統合校第一小中学校(仮称)建設計画を進めていますが、学校敷地内には給食場の建設計画がありません。高松市適正配置等審議会から、中心部小中学校の給食センターを、統合後の敷地を利用して新しく建設することが提案されており、給食センター設置について検討を行っていることが、平成 17 年 12 月高松市議会の教育長の答弁で明らかになりました。しかも、その給食センターは、平成 22 年に開校する新設統合校と高松市中心部や南部の小中学校も対象にした大規模なものになることが教育長との面談で明らかになりました。しかし、この計画は、子どもたち・保護者や地域住民・給食調理員など直接かわる人々には何の説明もなく、当然同意もありません。「子どもたちのためにいい学校をつくる」ことを掲げて、学校の統合をすすめているはずなのに、学校の重要な施設である給食場を設置しないことを一方的に水面下で決定しようとしています。

平成 9 年文部科学省は、学校給食の調理体制について「自校方式が望ましい」との見解を出しおり、食生活の乱れによる子どもの生活習慣病の増加などの課題に対して、平成 17 年 6 月には食育基本法が施行されました。このような中で、今ある自校方式をあえてセンター化することは、時代に逆行することです。

学校給食は教育の一環であり、学校給食の主人公は子どもたちです。高松市の自校方式での給食は、温かいものは温かいうちに食べられる、給食を作る人と食べる子どもたちのお互いの顔が見え信頼できる給食環境が生まれる、各校の行事や子どもたちの状況に応じて作れるなど、子どもたちの健全な発達と食生活の改善のために大きな役割を果たしてきました。

また、災害時においても、学校が地域の避難所となり、給食場は重要な役割を果たします。そういう意味でも、新設統合校には給食場の設置は不可欠であり、いま学校にある給食場をなくすことは受け入れられません。

教育としての学校給食をさらに充実させ、より安全で安心な学校給食を提供するために、自校方式での学校給食の継続を強く求めます。

【 請 願 事 項 】

1. 新設統合校第一小中学校(仮称)に給食場を設置し、自校方式での給食を提供すること。
1. 大規模な新しい給食センターの建設ではなく、自校方式の給食を続けること。

氏 名	住 所

住所・氏名については、請願署名以外のものには使用しません。

高 松 市 の 学 校 給 食 を よ く す る 会